

コロナ治療最前線

患者一人に医師3人体制

福井赤十字病院・赤井さん聞く

不安抱えながら防護徹底

新型コロナウイルスの感染拡大で、県内ではクラススター（感染者集団）が発生し、感染者数が増えていく。最前線で患者の治療に

当たる福井赤十字病院の赤井雅也感染管理室長（五七）に、現場の様子を聞いた。

△ 県内では、年明けに介護

施設内でのクラスターの発生が相次ぎ、介助が必要な高齢者の感染が急増しています。県からの要請に応じ、主に中等症、重症患者を受け入れています。現段階では医療体制は維持できていますが、今後新たなクラスターが発生すれば、一気に逼迫することもあり得ます。

食事、排せつ、着替えな

職員は不安を抱えながら手指消毒と、マスク、フェイスガード、帽子の着用を徹底しています。防護服は必ず二人一組で脱ぎ着し、着脱訓練も実施。特定の診療科や医師に負担を掛けないよう、患者一人につき医師が三人体制で担当します。

なかなか収束が見えませ

んが、とにかく感染者数を減らさなくてはなりません。三密対策や移動の自粛など基本的な対策を徹底してほしいです。



介助の必要があるコロナ患者の受け入れについて話す赤井さん＝福井市の福井赤十字病院で

ど全てに介助が必要な寝たきりの人も多いです。認知症により意思の疎通が難しい人や、環境の変化で「ここはどこ」とパニックを起こす人もいます。マスクを外したり、点滴を抜いたり、徘徊^{徘徊}したりする」ことががあるので、看護師がずっとそばにいなくてはならず、院内感染のリスクが高まっています。

手指消毒と、マスク、フェイスガード、帽子の着用を徹底しています。防護服は必ず二人一組で脱ぎ着し、着脱訓練も実施。特定の診療科や医師に負担を掛けないよう、患者一人につき医師が三人体制で担当します。